

乳がん検診

日本女性の乳がんが急速に増えている

7～8年前は40人にひとり、最近では30人にひとりといわれていましたが、最新の医療統計(H16)では、女性の23人にひとりが乳がんにかかるといわれています。乳がんによる死亡者数も増えていて、年に1万人近くの方が乳がんで亡くなられています。以前は、日本女性は欧米に比べて乳がんは少なかったのですが、欧米化された食生活と結婚・出産の高齢化によって、欧米と同程度に多くなりました。

一方、欧米では罹患率はかわらないものの、乳がんによる死亡数は減少しています。これは、マンモグラフィによる乳がん検診がしっかりと広まり(検診率70%)、早期発見が増えたためといわれています。残念ながら日本の平均検診受診率は12.4%、まだまだ検診後進国です。

乳がんからあなたの乳房とあなた自身を守るために、積極的に検診を受けましょう

日本で乳がんは30代から増え始め、40～50代に最も罹患率が高くなります。しかし、30代やそれ以下の年齢の方の乳房は、正常でもマンモグラフィで真っ白にうつるため、**30代になったら1ヶ月に1回は自己検診を行い、40歳以降は自己検診に加えてマンモグラフィという乳房専用のX線撮**

影を、1年に1回は受けたほうがよいでしょう。

マンモグラフィは乳腺の中にあるしこりを白く描きだしたり、極早期(0期)のがん細胞を石灰化として見つけたりすることができます。乳管内で発生した乳がんは、最初乳管の中にとどまっております。やがて浸潤してしこりをつくります。このような

極早期に乳がんを見つけることは、乳房を残す治療やその後の生存率に大きく影響しますので、とても大切なことです。

30代以下の方で、何か症状があったときに受診された場合、乳房にもよりますが超音波(エコー)検査が有効なことがあります。マンモグラフィに比べ、石灰化の診断は困難ですが、しこりの内部構造の鑑別は得意です。



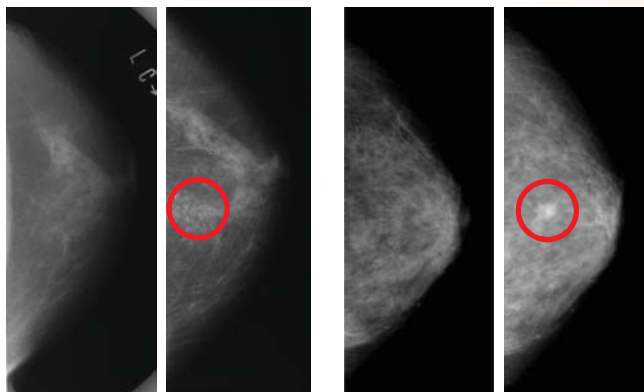
診療放射線技師 山田 真莉 診療放射線技師 日高 文子 外科医長 田中 旬子 診療放射線技師 岡田 陽子

田中医師は検診マンモグラフィ読影認定医師
日高・岡田・山田技師は検診マンモグラフィ撮影認定技師です

外科(乳腺)医長 田中 旬子

H9.9.1 → H13.6.27

H12.6.13 → H13.8.10



マンモグラフィ検診で見つかった乳がん

今年6月に検診された患者さまのご感想 ▶▶

検診前は不安でしたが、女性診療外来の田中先生は患者にわかりやすいように検査の内容や、診断の結果を説明してくれました。安心して相談できる、任せられる、そんな印象を受けました。

デリケートな部位だけに、なかなか病院に足を運ぶのを躊躇してしまう、そんな不安を取り除いてくれる女性診療外来だと思います。

自己検診の方法

定期的な乳がん検診（マンモグラフィ検診）以外にも、乳がんは自分でさわってわかる場所のできるの、早期のうちに自分で乳房の異変に気づくことも可能です。バスタイムを利用して乳房のチェックをする習慣をつけましょう。月に一回、月経が始まって5～7日後が最適です。

* 鏡でみてチェック

- ・左右の乳房の形や大きさに変化がないか
- ・乳房のどこかに皮膚のへこみやひきつれがないか
- ・乳首がへこんだりただれたりしていないか

* 乳房にふれてチェック

（調べる側の腕をあげて反対の手の指の腹でソフトに）

- ・乳房のしこりはないか
- ・脇の下のリンパ節にしこりはないか
- ・乳首をつまんでも分泌物がでないか



肩まで手を上げる



バンザイする



脇の下にもしこりがないか



横になってチェック